

平和と安定欠かせない

アグネスさん 講演 国内外の様子語る

苦小牧・せらび



支え合いの大切さについて語ったアグネス・チャンさん

露し、会場を沸かせた。一方で、イラクやアフガニスタンなどで子供が次々と死んでいく、多産多死の厳しい現実についても語

った。この悪循環を終わりにするには「平和と安定した生活が欠かせない」と指摘。「平和を望むなら、どれくらい人に優しくできるか、どれだけ許せるかが大切」と説き、「自分が恵まれているのにそれに気付かないのは不幸です。人間は素晴らしいことに、いつでも変われる」と呼び掛けた。

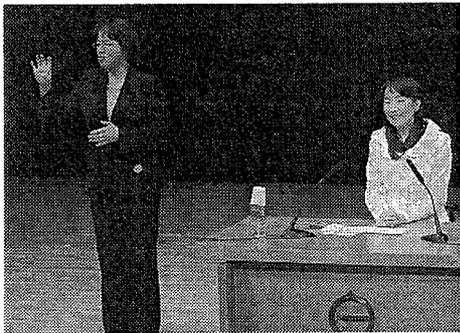
歌手で教育学博士、日本ユニセフ協会大使と幅広く活躍するアグネス・チャンさんを招いた講演会が十日、苦小牧市文化会館で開かれた。当初予定の二月から大雪の影響で延期になった講演会には、市民約三百人が訪れ、「ともに支え合う街づくり」をテーマにしたアグネスさんの優しい語りにも耳を傾けた。

障害者理解の促進を旨とし、社会福祉法人せら

びの主催で、道委託の施設拠点機能支援事業の一環として開催した。アグネスさんは、他人の影響を解説して教育学博士の一面を見せたり、海外留学を決意したいきさつなどについても語り、時にユーモアや歌声も披

差別ない、支え合う社会に

「アグネス・チャン講演会から」(上)



手話通訳も付いて、講演したアグネスさん

今月十日、歌手のアグネス・チャンさんを招いた講演会(社会福祉法人せらび主催)が若小牧市文化会館で開かれた。「みんな地域に生きるひととともに支え合う街つくりに向けて」をテーマに、アグネスさんは海外ボランティアの体験や子育て経験など、学んだ支え合いの精神の大切さを伝えた。講演の内容を三回にわたって紹介する。

わたしは香港生まれ、香港育ち、十七歳から日本に来て、三十七年になります。きょうは支え合う、差別はないという心

を語り合おうです。いろいろな国を歩いてみて、安定した環境で子育てができない人の方が、圧倒的に多いことを知りました。ユニセフの統計では、まだ毎年、九百二十万人以上の子供たちが五歳になる前に死んでしまっています。どこで生まれても死ぬのかという、それは戦時中の国、貧困な国です。

悪循環を止めるには、二つ最低条件が必要だと思います。その一つが平和です。戦時中たくさんの方が死にます。戦争が終わると、大人の死亡率はぐっと下がりますが、子供の死亡率は何年たってもなかなか下がらないんです。なかがらなないんです。要するに、一つの地域がもう一度、子供をほくくむ力を持つまで、時間がかかるんです。その間に、また争いが起きて、犠牲者が増えていく。あなたに何かを頼むことができません。ねと言われ、性格が少しづつ暗くなった気がします。心理学の人たちは「人間は比べてはいけません。比べないで、丸ごと受け止める。受け止めて初めて、その人の美しさが見えるんです。普通というラインは幻です。」

戦争と貧困なくそう

大人が、食べ物を持って帰ってくるぐらいの状況が必要なんです。残念ながら、相談しましょう。そして、またたくさんの方が、この二つの最低条件でさえも、そろっていないんです。これを基準にして自分なっていますね。魅力は、人それぞれです。障害がある人は、も

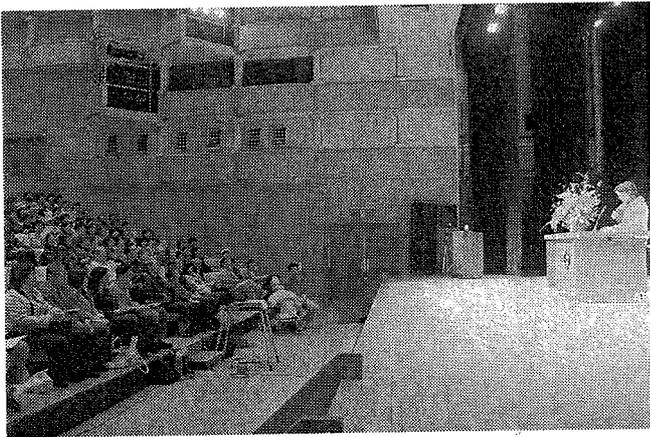
なかがらなないんです。要するに、一つの地域がもう一度、子供をほくくむ力を持つまで、時間がかかるんです。その間に、また争いが起きて、犠牲者が増えていく。あなたに何かを頼むことができません。ねと言われ、性格が少しづつ暗くなった気がします。心理学の人たちは「人間は比べてはいけません。比べないで、丸ごと受け止める。受け止めて初めて、その人の美しさが見えるんです。普通というラインは幻です。」

プロフィール
香港生まれ。1972年「ひなげしの花」で歌手として日本デビューを果たす。その後ボランティア活動や文化活動にも積極的に参加。現在、歌手活動にとどまらず、エッセイスト、大学教授、日本ユニセフ協会大使など、幅広く活躍している。

差別ない、支え合う社会に

「アグネス・チャン講演会から」
①

中学に入り、遊みたいの見えない子、親のいな
半分で、ボランティア活い子、難民の子、心に病
動に参加しました。活動を持つ子供。がんの末期
を通し、いろんな人と会 患者の看病もしました。
うことができました。目 ボランティアから少な



集まった約300人に、平和への思いを語るアグネスさん

くとも一つ覚えたのは、 になって怖くなって死ん
いるんな人が自分の地域 だいくともなかった。
に生きているということ 自分が恵まれているの
です。わたしが知らない にそれに気が付かないのは
ところで、一生懸命に生 一番不幸だと本当にそ
きている仲間がいつばい う、わたしは自分を不幸
いました。でも、わたし にしていただいただけなんで
は知らなかった。 す。
自分の周りが見えてい ても、不幸ではなく
なかつたか
ら、不平不
満ばかり言
って、自分
のことをか
わいそうと思っていた。 幸せだったら、どうして
とんでもなかった。少 毎日、ちょっと苦しいの
なことも、わたしは屋根 か。いろいろと考えたら、
の下で寝ていた。服も着 答えが出ました。わたし
ていた。ごはんも食べら は自分のことばかり考
れた。親兄弟がいて、学 えていたから、苦しくな
校にも行けた。おなかか っていたんです。
痛くなったら、わたしは ボランティア活動のお
薬が飲めた。土砂降りの かげで、やっと、周りの
雨の中、外で泣きながら 人のことを一生懸命考
夜が明けるのを待つこと え、自発的に取り組んだ。 ことなんです。違いを
も無かった。一人で病氣 自分のことを暗いと思 認め合って、尊重し合っ
て、お互い
を認め合
う必要
です。

違いを認め合う必要

でも、冷戦
し平和が来
ているはず
です。
でも、冷戦
の終わった今も五十何力
国と地域で戦時中です。
80%が内戦です。主な原
因は、宗教の違い、歴史
の認識の違い、民族の違
いなんです。
「同じになつてくれな
いなら死んでもいいま
す」とそんな愚かなこと
をわたしははしらないは
ずなのに、毎日のように
どこかで起きています。

差別ない、支え合う社会に

「アグネス・チャン講演会から」(下)

初めてアフリカに行っ
たのはエチオピアで、一
九八五年でした。その年、
干ばつと内戦で百万単位
の人が飢えて死んでいま
した。

(現地で)何とか子供
たちとコミュニケーション
を取ろうと思い、話せ
ないので、現地の人から
言葉をおぼえて作った替
え歌を歌いました。最初
は「変なおばさんだな」
という顔をされたんです
が、歌ううちに一人、二
人、三人と子供が立ち上
がってくれた。立つと、
体がやせているのがよく
分かりました。太ももが
わたしの三、四本の指ぐ
りしかなかった。そんな
知らない力までとんとん
わいてくるんです。

なりました。あの一回で、
渡す限りがお墓。
一生分の勇気を子供たち
はくれたんです。助けて
あげたいと思うと自分の
知らない力までとんとん
わいてくるんです。

自分もよくなります。優
しく支え、その中から
幸せの種を見つけてこと
ができると思います。

世界の子供に夢ある生活を

ちを抱え、ほおずりして、
強です。タイでは、人身
売買。スーダンでは児童
兵士の問題。インド・ム
ンバイのスラムの子供た
ち、本当にかわいそうだ
った。

がん病棟に行ったら、
あふれんばかりの泣き
放しの子、がんの末期患
者です。先生は劣化ウラ
ン弾のせいと言い、「あ
なたは日本から来たんで
しょう。被爆はどいつの
ことなの。助けてよ、
わたしたちに頼みに来る
んです。さすがに、言葉
を失いました。

天国の場合、長いはし
でおいしそうな物を取っ
たら、相手の口元まで運
びます。「はい、食べて
ください」と。自分も同
じくやってみよう。お互
いにおいしい物が食べら
れ、和気あいあい、幸せ
がいっぱいだそうです。



世界に
語るアグ
ネス・チ
ャンさん

現実を
悲しい
ふれる、
アグネ
ス・チ
ャン
さん
の
講演
内容
です。

次に世代が大人になる
時には、少しでも天国に
近いような状況になれ
ば、幸せだと思います。
みんなと一緒に頑張った
と思います。